

黄

三年

画数 11
筆順 一 廿 艹 艹 黄
オン コウ・オウ
クン き・こ

成り立ち



↓黄 ↓黄 ↓黄 ↓黄 ↓黄 ↓黄

火をつけてとばす「や(火や)」のかたちをあらわした字です。「きいろ」い光を出してとぶので、「黄色」といういみをあらわしたものです。

それで「光」と「黄」の音は、どちらも「コウ」という音なのです。

オウは呉音で、「黄金」など、ふるいことばのよみかたにつかわれます。

「木」が、「木陰」とよまれるように、「黄」という字も「黄金」のようにじゅくごのときには「こ」とよまれます。

使い方

▽「黄金の雨だね」とおばあさんがいったので、ほんとうに黄金色の雨かとおもってそとに出て見ましたが、ふつうの雨でした。黄金の雨とは、日どりつづきにふる雨のことをいうのだそうです。黄金ほどのぬうちがあるからです。

熟語例

- ▽黄金(金のこと。また、「お金」のいみにもつかわれます。「黄金」ともいいます。)
- ▽黄身(卵の中身の黄色いところのことで、「白身」にたいすることばです。「卵黄」ともいいます。)
- ▽卵黄(卵の黄身のことです。白身のこととは「卵白」といいます。)
- ▽黄痘(からだが黄色くなる病気です。)
- ▽黄鳥(うぐいすのことです。)
- ▽黄昏(夕ぐれのことです。↓たそがれ)
- ▽黄泉(地下の泉ということで、「しんだ人のいくところ」のことをいいます。)
- ▽黄色人種(はだの色が黄色い人種といういみのことばで、日本人などのアジア人種をいいます。)

合

二年

画数 6
筆順 ノ 八 合
オン ゴウ・ガツ・カツ
クン あいいうわすわす

成り立ち



↓合 ↓合 ↓合 ↓合 ↓合 ↓合

うつわの「ふた」と「み」とを組み合わせた字です。うつわの「ふた」と「み」とは、ぴったりと「あう」ようにつくられています。それで、「あう」「あわせる」「あわす」といういみをあらわしました。

「説文では、「合」と「口」との会意字であると解かれています。「合」は、「合」で、人や物の多いことを符号的に表したもので、衆(衆)や集(集)と同じ構成で同義である。したがって、衆人の口が一つに「あう」とを表したものと解くのである。この解は「会」や「合」などの理解につながる便があるが、「合」の場合は、容器の蓋と身と見た方が解りやすい。」

使い方

- ▽お正月に、かぞく合わせのゲームをしました。おなじかぞくのカードを合わせて、ひとつのかぞくが、みんなそろったら、かちです。わたしは、十かいやって三かい、かちました。おにいちやんは、四かい、かちました。かぞく合わせは、とてもおもしろいゲームです。
- ▽わたしは、きせかえにんぎょうがすきです。にんぎょうに、よく合うふくをえらぶのが、とてもたのしいので、「これが合うかな、あれのほうが、もっと合うかしら」と、なんかいも、きせかえます。

熟語例

- ▽合意(意見が合うこと。「りょうほうの合意にもとづいて、じぎょうをおこなうこととする」などといいます。)
- ▽合意(かたくなるしい、いいかたです。)
- ▽集合(一かしよに、集まること。「九時に、きょうしつに集合してください」などといいます。)
- ▽合唱(こえを合わせて、うたうこと。「みんなで、『ほたるのひかり』を合唱しました」など)